

第59回 DAPAカンファレンス 症例検討会 case 80

腹痛・不安感を訴える患者に対する 鍼灸治療の1症例

2026年9月14日

御幸病院 統合医療センター

山内 晶子

【症例】 30歳代 女性

S(subjective) 主観的情報

〈主訴〉 # 1 腹痛 # 2 不安感 # 3 肩こり・頭痛

1 上腹部の痛みや痞え 下腹部の痛みや張り ほぼ毎日 5回程/日
対人で緊張した時や空腹時などに起こる 排便で軽減

2 息子のこと、自身の体調や将来に対する不安 夜間に増強

3 出産後、抱っこをする影響か肩こりがひどくなった (L≡R)
頭痛 (側頭、頭頂) は数回/月起こる ズキズキとした痛み

〈診断名〉 適応障害

〈医療機関〉 Aクリニック (内科・心療内科・精神科/月1回)

〈現病歴〉

X-19年	高校進学も上手く馴染めず、腹痛による欠席が多かった B胃腸科「 過敏性腸症候群 」→ 西洋薬の内服
X-13年	<u>海外に1年留学 体調よく最も自分らしく過ごせた</u>
X-8年	不安感からバスに乗車できず 胃痛・嘔気伴う Cクリニック「 抑うつ状態 」→ 漢方・抗うつ薬の内服
X-4年	<u>COVID-19罹患後に症状増悪、退職</u>
X-2年	妊娠、男児出産 (妊娠高血圧症候群、大学病院で帝王切開)
X-1年	Aクリニックへ変更 「 適応障害 」→ 主に漢方の内服
X年3月	当院初診

〈検査〉 胃カメラ 3回 腹部エコー 1回 → 異常なし

〈既往歴〉 **過敏性腸症候群 妊娠高血圧症候群 帝王切開**

〈家族歴〉 祖父：高血圧 祖母：高血圧・肺がん

〈アレルギー〉 花粉症 化粧品

〈生活歴〉 **2歳の息子と2人暮らし 未婚 無職**

〈食生活〉 医師から小麦製品を控えるよういわれている
鶏肉をよく食べる ポテトチップス、ポップコーンが好き

〈嗜好品〉 飲酒（－） 珈琲（－） 喫煙（－） ＊妊娠前は喫煙

〈心理社会的背景〉

- 自然豊かな地域で育つ
- 両親は仲が良い ともに公務員
- 長女、第2人
- 両親は、子供が1人くらいは公務員になってほしかったと思っている？！
- 両親から「早く仕事して、親の背中を見せないと！」といわれる・・・
- 叔母はよき理解者、ほぼ毎日連絡をとり合う
- 対人の場面で不安感や緊張が強くなる
- 外食の途中で具合が悪くなり帰ることもある

〈服薬・サプリメント情報〉

Aクリニック

■ 大建中湯 7.5g/日（分3）

■ 日本キナーゼ

■ イニチウムアイ

} 当院初診の
少し前から摂取

市販薬

■ イブ（解熱鎮痛薬） 頭痛時

D耳鼻咽喉科

※実際は花粉症の症状時適宜服用

■ ルパフィン錠	（アレルギー治療薬）	10mg	1回/日就寝前
■ モンテルカスト錠	（アレルギー治療薬）	10mg	1回/日就寝前
■ ムコダイン錠	（去痰薬）	500mg	3回/日毎食後
■ メジコン錠	（鎮咳薬）	15mg	咳が強い時



日本が生んだ3つの切り札

日本キナーゼ アマゾン

30粒入り標準価格

3,500円(税抜価格3,241円)

90粒入り標準価格

9,500円(税抜価格8,796円)

日本人医学博士たちが発見した 日本由来の3つの成分が、 そのモヤモヤをスッキリ溶かします

内容量
30粒
90粒



実物大
胃酸の影響を受けにくい
腸溶性カプセルを採用

日本キナーゼの3つの特長

1.信頼のナットウキナーゼを最大用量配合

スパイクタンパク分解の最新論文(PMID:36080170)で使用されたものと全く同じナットウキナーゼを採用しました。全工程クラス7のクリーンルームで製造されています。

2.初の日本由来の「スッキリ成分」3種配合

発見者である先人たちがこれらの食材を育てた祖国に敬意を払い、本製品名に「日本」を冠しました。

3.胃酸に強い腸溶性カプセルを採用

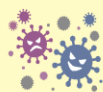
耐酸性のカプセルを採用し、さらにカプセル化工程で熱を加えていないので生きた成分が身体に届きます。

1日1〜3粒を目安にお召し上がりください

製品のより詳しい情報はこちら >



このような方におすすめします



パンデミックの
その後が気になる方



思考に霧がかかった
ように感じる方



以前に比べて
しんどいと感じる方



以前に比べて
記憶力が?な方



ピルを
使用されている方



元気な赤ちゃんを
望んでいる方



手足が
冷えやすい方



長時間同じ姿勢
でいることが多い方

日本キナーゼの成分

すべて日本人医学博士によって
発見された日本由来の食品成分です



成分1

ナットウキナーゼ
(ビタミンK₂は除去しています)

発見者

須見 洋行 (ひろゆき)
倉敷芸術科学大学名誉教授

配合量

5000FU/カプセル

成分2

ルンブロキナーゼ

発見者

美原 恒 (ひさし)
宮崎医科大学名誉教授

配合量

25mg/カプセル

成分3

泡盛もろみ末
(香氣成分)

発見者

須見 洋行 (ひろゆき)
倉敷芸術科学大学名誉教授

配合量

50mg/カプセル

FU=フィブリン分解単位(fibrin degradation units)

フィブリン分解単位は財団法人日本健康・栄養食品協会が定めるナットウ菌培養エキス食品品質規格基準に準拠した方法で測定しており、1FUはフィブリンにナットウキナーゼを加えて得られたフィブリン分解物を波長275nmにおける吸光度で測定した際、吸光度を1分間に0.01増加させる酵素量です。

Initium I (イニチウム アイ) ケイ素 × フルボ酸 × 海洋深層水含有カプセル

体内に溜まった有害物質の排出を助ける
体内のリズムを整え、健康維持をサポートし、
肌の調子を調える効果が期待される



【客觀的情報】

O(objective) 客觀的情報

身長) 165 cm

体重) 58.0 kg

BMI) 21.3

血压) 124/72 mmHg

脈拍) 100 bpm

【四診による情報】

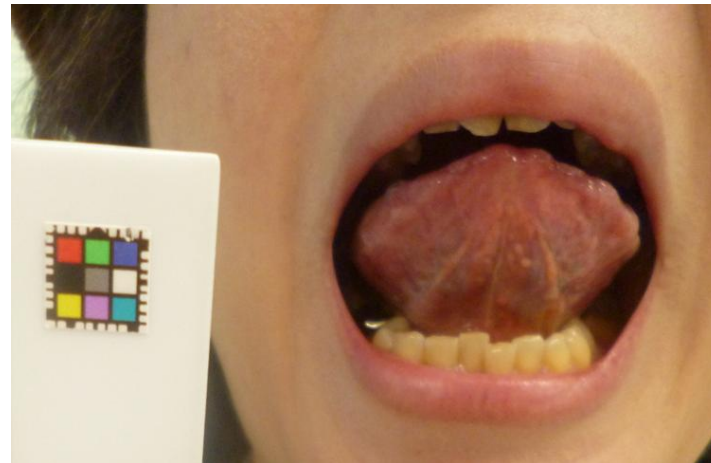
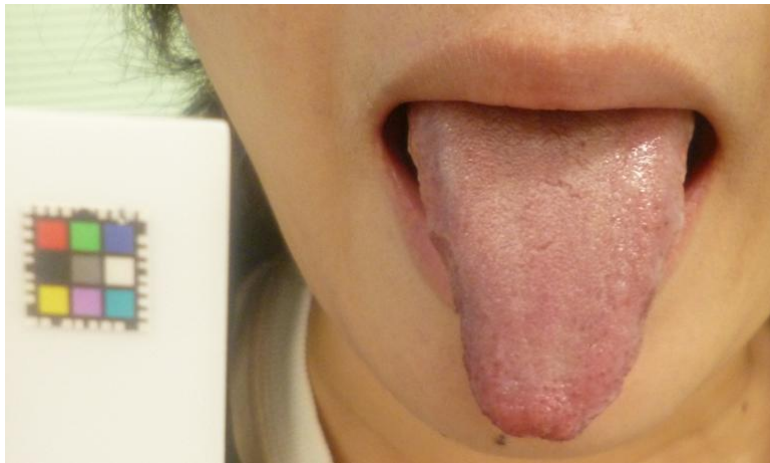
望 診) やや焦燥感あり

聞 診) 発声力あり

脈 診) 数軟

舌 診) 齒痕 苔質やや暗紅 (舌辺紫暗 舌尖紅)

舌苔白～黄やや膩 舌下静脈やや怒張



X年4月 [6診]

腹 診) 臍上悸 胸脇苦満 左下腹部に圧痛 全体的に張って**拒按** (腹巻)

切 診) **足部冷感・発汗** 全体的に**筋緊張**強い (僧帽筋・前腕伸筋群)

飲 食) 食欲なし 温かいものを好む

二 便) 排尿 日中8～10回 夜間2回

排便1～2回/日 軟便 (ブリストル便形状スケールBSS:タイプ5)

睡 眠) 中途覚醒 多夢 (不快で怖い内容) 約6時間

月 経) 30日周期 1～2日目は経血量多く血塊あり・月経痛あり

その他) 浮動性眩暈 (頭頂部のフワフワ感) 首から上のぼせ イライラ

下腿浮腫 (夕方) 高音の耳鳴り

* 鍼灸の受療経験有

【治療】

A(assessment) 評価

P(plan) 治療計画

[弁証] 肝脾不和 肝気犯胃 心脾両虚 気滞血瘀

[治法] 疏肝理気 健脾和胃 安神寧心 舒筋活絡

〈主な治療穴〉

太衝 陽陵泉 足三里 三陰交 内関 手三里 中脘 肩井 百会 風池 膏肓 脾俞

〈刺激方法〉

- ① 置鍼 15分 (0.14~0.18mm × 30~40mm 深度 数mm~10mm)
- ② 温灸器 (e-Q チュウオー社製) : 下線経穴
- ③ 赤外線照射 (足部 腹部 背部)
- ④ マッサージ (頭頸部 肩背部)

〈得気〉なし

〈頻度〉月2~4回



e-Q

温熱刺激 3段階

低温:47℃ 約5秒

中温:51℃ 約2.5秒

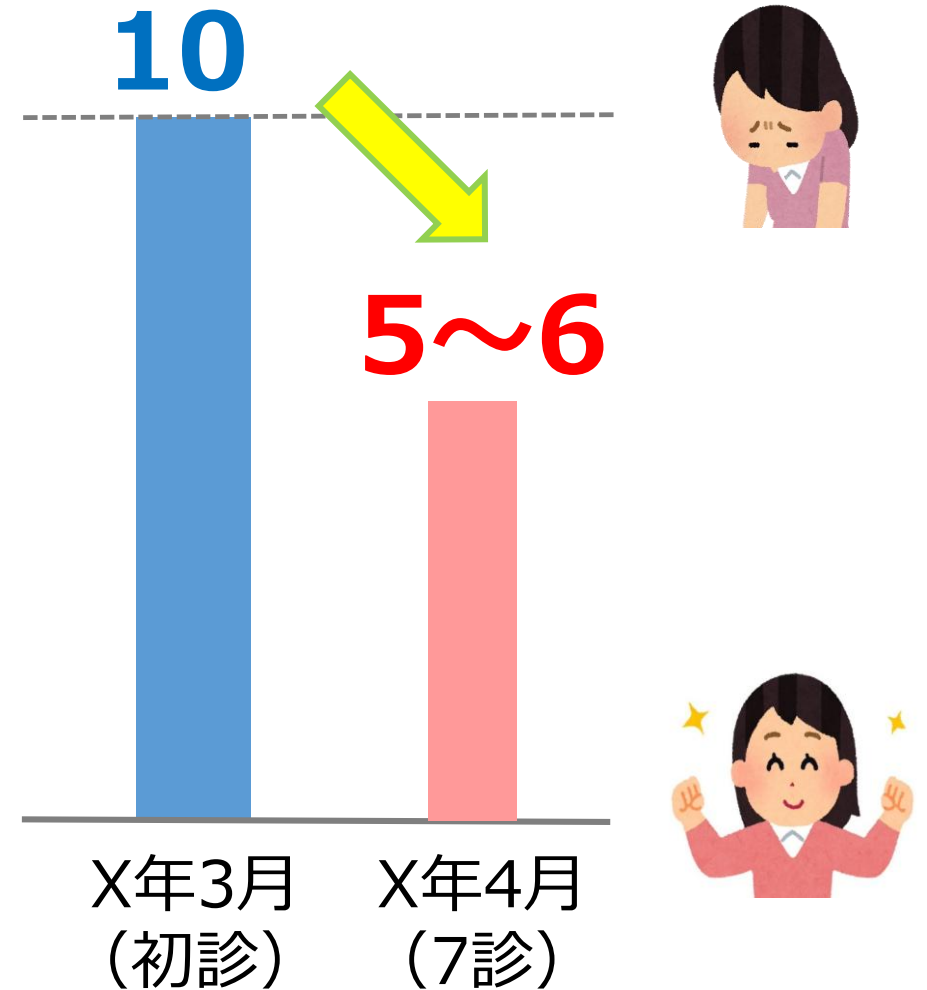
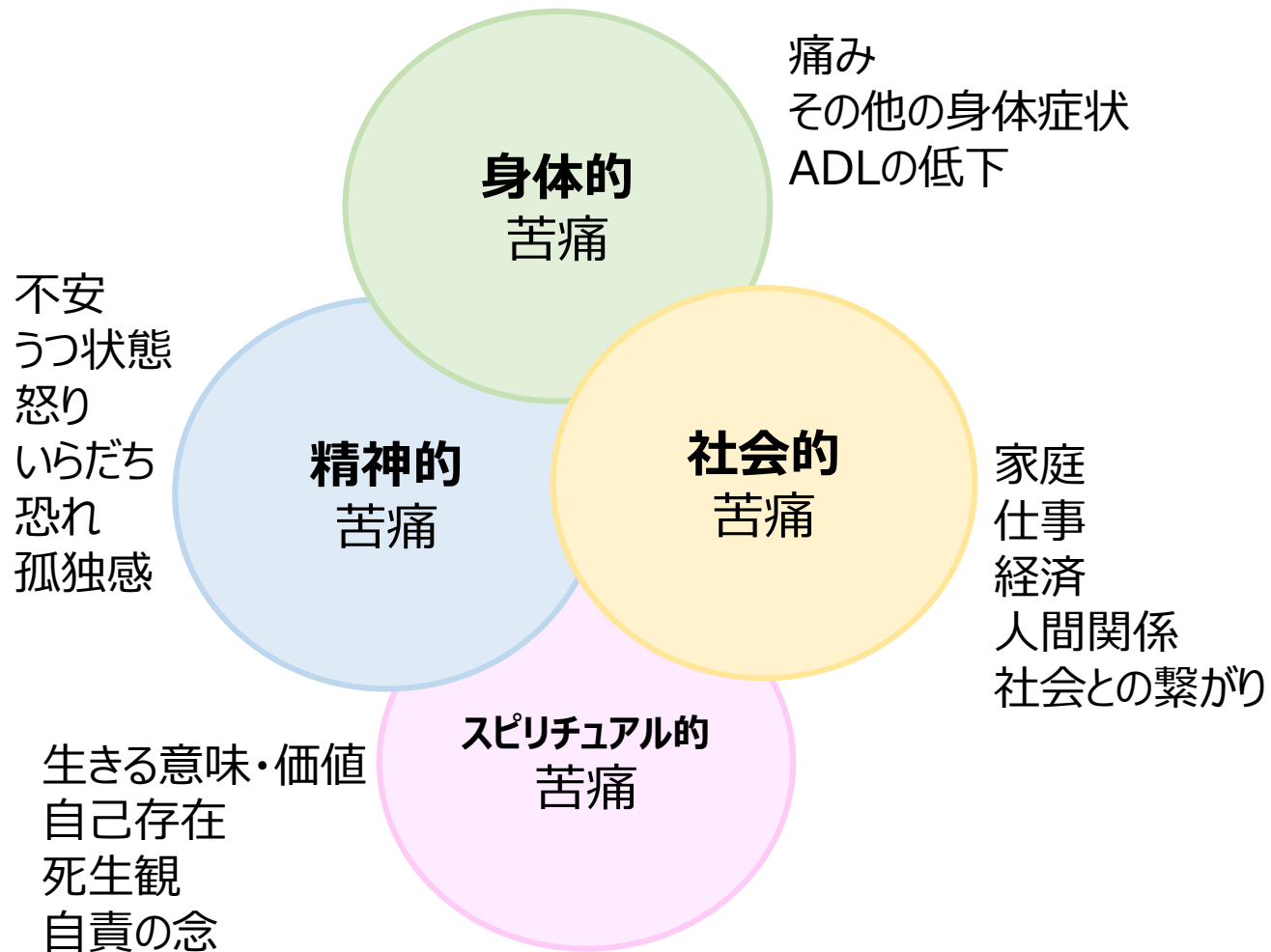
高温:60℃ 約3秒

【経過】

- X年3月 [初診] アロマ芳香浴をしながら傾聴 施術後「スッキリした」
- [2診] 肩井・膈中にパイオネックス貼付
- [3診] 落ち着いた表情 **不安感 NRS:6** 桂枝加芍薬湯
- [4診] 嘔気 低気圧頭痛（側頭部）→ 率谷追加
- X年4月 [6診] 腹痛軽減 不安感 NRS:5～6 **肩こり軽減**
- [7診] **腹痛程度・頻度ともに軽減** 足部温暖、発汗（－）
周囲からも「元気になってきた」といわれる
全人的苦痛:5～6（初診10と仮定） 柴胡桂枝乾姜湯

Aクリニックへ 施術報告書送付

全人的苦痛 (トータルペイン)



X年5月 [9 診] 腹痛は夕方に数回 頭痛あるも内服なし

[10診] 息子の弁当作りで 前夜から**不安・緊張、中途覚醒**
肩上部のこりより **前胸部の張り・苦しさ**
主治医からは「適当でいい」と助言

[11診] 息子が手足口病に罹患 → **心配が腹部に影響**
不安感 NRS:7 多夢 頭痛 (－) 眩暈 (－)

X年6月 [12診] 嘔気、みぞおちの張り **腹部エコー異常なし**
不安感 NRS:7 **HADS : 不安 17点 抑うつ 7点**

[13診] **腹痛1回のみ** 前胸部の張り・苦しさ → **気戸追加**
不安感 NRS:5 多夢 腹式呼吸提案 半夏厚朴湯

[14診] 腹痛1回のみ **腹部に軟らかさ** 頭痛ありイブ服用
不安感 NRS:5 月経前イライラ

HADS

Hospital Anxiety and Depression Scale

不安・抑うつを評価

左列（不安）と右列（抑うつ）
それぞれ各項目の点数の合計点を28から引く

1. 緊張したり気持ちがり張りつめたりする事が：

- 1 しょっちゅうあった
- 2 たびたびあった
- 3 時々あった
- 4 全く無かった

3. 何か恐ろしい事が起ころうとしているという
恐怖感を持つ事が：

- 1 しょっちゅうあって、非常に気になった
- 2 たびたびあるが、あまり気にならなかった
- 3 少しあるが、気にならなかった
- 4 全く無かった

5. 心配事が心に浮かぶ事が：

- 1 しょっちゅうあった
- 2 たびたびあった
- 3 それほど多くは無いが、時々あった
- 4 ごくたまにあった

7. 楽に座って、くつろぐ事が：

- 1 全く出来なかった
- 2 たまに出来た
- 3 たいてい出来た
- 4 必ず出来た

9. 不安で落ち着かないような恐怖感を
持つことが：

- 1 しょっちゅうあった
- 2 たびたびあった
- 3 時々あった
- 4 全く無かった

11. じっとしていられないほど落ち着かない事が：

- 1 しょっちゅうあった
- 2 たびたびあった
- 3 少しだけあった
- 4 全く無かった

13. 突然、理由の無い恐怖感（パニック）に
襲われることが：

- 1 しょっちゅうあった
- 2 たびたびあった
- 3 少しだけあった
- 4 全く無かった

2. むかし楽しんだ事を今でも楽しいと思う事が：

- 1 めったに無かった
- 2 少しだけあった
- 3 かなりあった
- 4 まったく同じだけあった

4. 物事の面白い面を笑ったり、理解したりする事が：

- 1 全く出来なかった
- 2 少しだけ出来た
- 3 かなり出来た
- 4 いつもと同じだけ出来た

6. 機嫌の良いことが：

- 1 全く無かった
- 2 たまにあった
- 3 時々あった
- 4 しょっちゅうあった

8. 仕事を怠けているように感じる事が：

- 1 ほとんどいつもあった
- 2 たびたびあった
- 3 時々あった
- 4 全く無かった

10. 自分の顔、髪型、服装に関して：

- 1 関心が無くなった
- 2 以前よりも気を配っていなかった
- 3 以前ほどは気を配っていなかったかもしれない
- 4 いつもと同じように気を配っていた

12. 物事を楽しみにして待つことが：

- 1 めったに無かった
- 2 以前よりも明らかに少なかった
- 3 以前ほどは無かった
- 4 いつもと同じだけあった

14. 面白い本や、ラジオ又はテレビ番組を楽しむことが：

- 1 ほとんどめったに出来なかった
- 2 たまに出来た
- 3 時々出来た
- 4 たびたび出来た

X年7月 [15診] 腹痛は気にならず 低気圧頭痛 眩暈（揺れる感じ）
不安感 NRS:8.5 動悸 咽喉のつまり
HADS : 不安 17→19点 抑うつ 7→13点
次回受診時に主治医に相談を

[16診] 主治医からは季節性の体調不良では？ **五苓散**
不安感 NRS:4 動悸（－） 咽喉のつまり
希望により**アロママッサージ**40分（頸肩背部・下肢後面）
「全身の力が抜けて、熟睡できた」

[18診] **腹痛（－） 嘔気 半夏瀉心湯**
不安感 NRS:4～5 咽喉のつまり（－）
神道・霊台に圧痛 → 追加

X年8月 [19診] 7/28 熊本地震後、約3週間ぶり

腹痛1回のみ 軟便不変 嘔気とのぼせ軽減

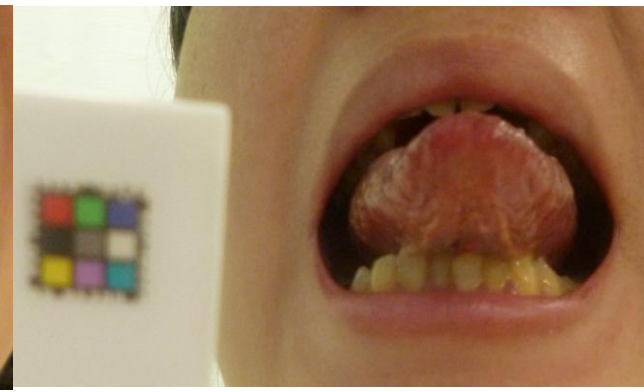
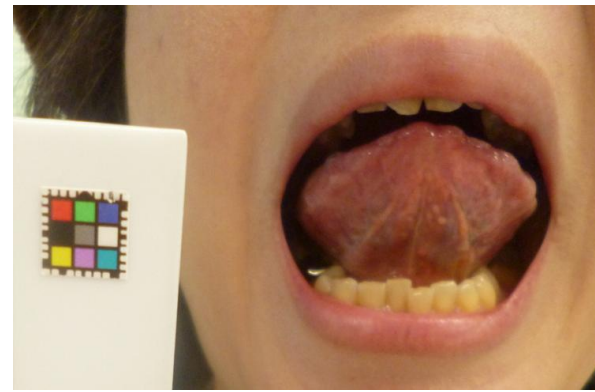
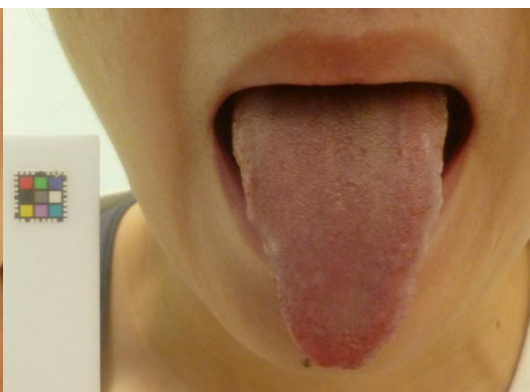
不安感 NRS:8 (地震直後) → 4

HADS : 不安 17→19→7点 抑うつ 7→13→4点

全人的苦痛:5 (初診10と仮定)

主治医より「レスポンス良くなった」

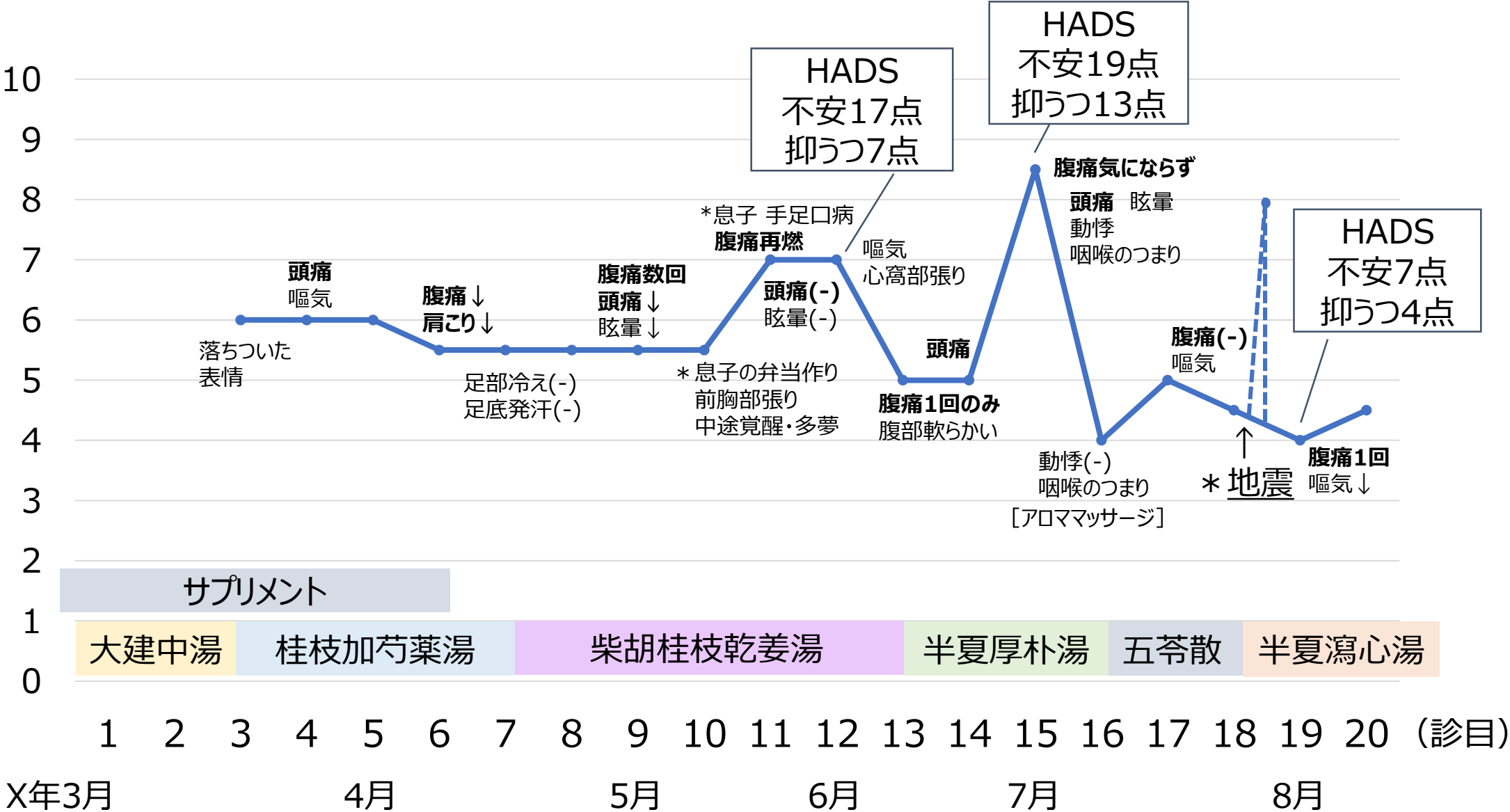
外食できる



X年4月 [6診] → X年8月 [19診]

X年4月 [6診] → X年8月 [19診]

不安感 NRS（施術前） 他



【考察】

- 腹痛を含む肩こり、頭痛、眩暈、耳鳴りなどの身体的症状が軽減した
ただし、漢方内服やサプリメントの摂取も行われており、鍼灸による効果と断定することはできない
- 身体的症状の軽減は、不安感の軽減につながったと考えられた
- 不安感NRSやHADSの点数は低下しているものの、さまざまな心理社会的ストレスにより再び悪化する可能性がある

【良かった点と限界・反省点】

- 施術の中で、身体にふれながら話を聴くことができた（鍼灸治療の特徴）
アロマテラピーなども取り入れ、リラックスできる環境づくりを心がけた
- 主治医に鍼灸受療について報告できたこと
患者の安心にもつながった
- 評価方法について
 - ・心理的な評価において**HADS**を活用し、可視化できた点はよかった
 - ・**NRSやHADSは**初診時に確認していないため、**比較が困難**
 - ・腹痛などの消化器症状に関する評価が必要
- 不安や緊張に至る考え方へのアプローチ、認知行動療法的手法が必要か

【症例から得た主要な教訓（まとめ）】

- 機能的消化管障害に対して、鍼灸治療は非薬物療法としての補完的役割の一助になる可能性が考えられた

【参考文献】

- 日本消化器病学会 機能性消化器疾患診療ガイドライン 2020
過敏性腸症候群（IBS）改定第2版
<https://www.jsge.or.jp/committees/guideline/guideline/ibs.html>
- 日本消化器病学会 機能性消化器疾患診療ガイドライン2021
機能性ディスぺプシア（FD）改訂第2版
<https://www.jsge.or.jp/committees/guideline/guideline/fd.html>
- 屋嘉比康次.機能性ディスぺプシアの病態と原因ー腸-脳相関障害の観点からー
現代鍼灸学.2025;25:17-23
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsmamr/25/1/25_17/_article/-char/ja/

- 藤倉光慈.機能性ディスぺプシアに対する鍼治療－課題の探索を目的とした文献レビュー－ 日本東洋医学系物理療法学会誌.49(2):97-106.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsop/49/2/49_97/_article/-char/ja/
- 谷口(吉元)授.過敏性腸症候群（IBS）に対する鍼灸治療の可能性.
現代鍼灸学.2025;25:47-50.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsmamr/25/1/25_47/_article/-char/ja/
- 加用拓己.機能性腹痛症候群に対する鍼治療の1症例.
全日本鍼灸学会雑誌.2010;60(4):744-751.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsam/60/4/60_4_744/_pdf/-char/ja/

- 藤倉光慈.過敏性腸症候群に鍼治療が有効であった1症例
ー出雲スケールとHADSを指標とした検討ー.
日本東洋医学系物理療法学会誌.50(2):197-201.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsop/50/2/50_197/_article/-char/ja
- 兵頭明監訳.針灸学(臨床篇).東洋学術出版社.胃痛・腹痛149-158.